保証書

保証期間内に取扱説明書の注意書きにしたがって正常な使用状態で使用していて故障した場合には、お買い上げの販売店に本書をご提示の上、修理をご依頼ください。

型名	コード式ディスクグラインダー SDG-800SL		お買い上げ日	保証期間
			年　月　日	1年
お客様	ご住所	〒		
	ご芳名			
	電話			
販売店	住所 店名	Tel　(　　)		

※上記欄にご記入のない場合は無効となりますので必ずご確認ください。

1、保証期間内でも次のような場合には有料修理となります。
（イ）使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
（ロ）お買い上げ後の落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷。
（ニ）本書のご提示がない場合。
（ホ）本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合あるいは字句を書き換えられた場合。
2、本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合には藤原産業（株）情報サービスセンターにお問い合わせください。
3、本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保存してください。
4、本書は日本国内においてのみ有効です。

発売元

藤原産業株式会社

情報サービスセンター　〒673-0433兵庫県三木市福井2115-1　Tel.0794-86-8200（代）　Fax.0794-83-5160

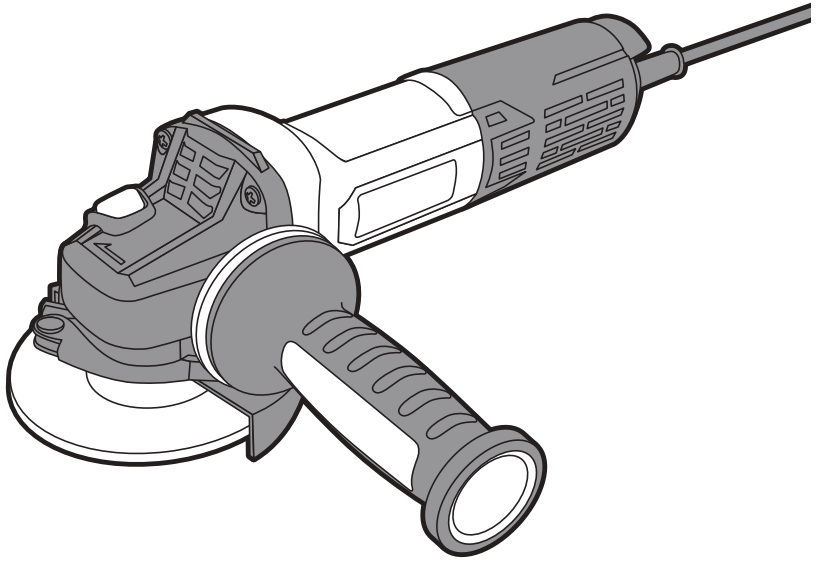
適用基準：J60745-2-3(H22)

SINCE 1897 SK11

コード式ディスクグラインダー

SDG-800SL

取扱説明書



このたびは、SK11コード式ディスクグラインダーSDG-800SLをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しく、安全にご使用ください。また、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

※外観及び仕様などは製品改良のため、一部変更することがありますのでご了承ください。

目次

1. 各部名称・仕様・用途・標準付属品 ―― P2

各部名称 …… P2
仕様 …… P2
用途 …… P2
標準付属品 …… P2

2. 安全上のご注意 ―― P3～10

安全確保のために …… P3
電動工具を安全にご使用いただくために …… P3～5
ディスクグラインダーを安全にご使用いただくために …… P6～8
その他の警告・注意事項 …… P9～10

3. 準備 ―― P11～13

ディスクカバーの取付け・取外し …… P11
シャフトロックボタンについて …… P12
スイッチ操作について …… P12
ご使用前の点検 …… P12～13

4. 使い方 ―― P14～20

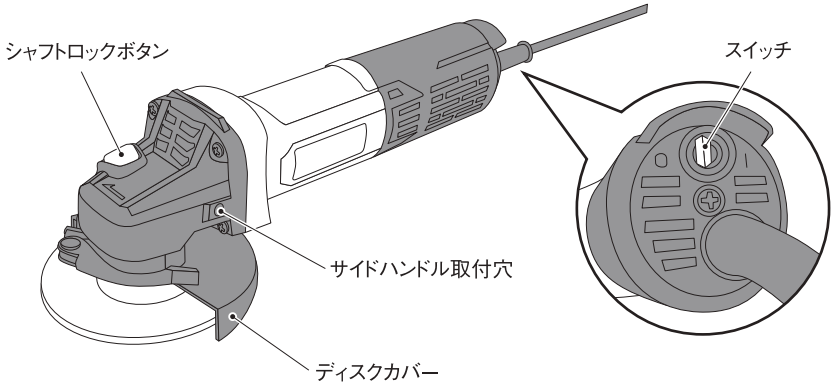
研削・研磨の基本 …… P14
研削砥石（オフセット砥石）の取付けと研削作業 …… P15
弾性砥石（フレキシブル砥石）の取付けと研磨作業 …… P16
サンディングペーパーの取付けと研磨作業 …… P17
切断砥石の取付けと切断作業 …… P18
ワイヤーブラシの取付けと研磨作業 …… P19

5. 保守・点検 ―― P20～21

6. 無料修理規定 ―― P22

1. 各部名称・仕様・用途・標準付属品

各部名称



仕　様

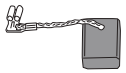
型式	SDG-800SL
電源	単相・交流100V 50/60Hz
電流	8.3A
消費電力	800W
回転数	10,000min^{-1}
砥石外径	φ100mm
スピンドル径	M10×1.5
砥石取付け穴径	φ15mm
コード長	約2m
本体質量	約1.7kg（電源コードを除く）
絶縁方式	二重絶縁 回

※改良のため、仕様及び形状は予告なく変更することがあります。予めご了承ください。

用　途

●金属の研磨、切断。

標準付属品

●ロックナットレンチ
●研削砥石
●ハンドル
●カーボンブラシ 
●ディスクカバー

2. 安全上のご注意

安全確保のために

⚠警告

●安全に正しくご使用いただくために、すべての取扱説明書の安全上の警告、指示。図解および仕様をよくお読みいただき、安全にお使いください。
●ご使用前に、この「安全上のご注意」のすべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
●火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。「安全上のご注意」を守らない場合には、火災、感電、重傷を負うおそれがあります。
●お読みになった後は、必要に応じてお使いになる方がいつでも「見ることができるように、すべての警告および指示を後日のために保管してください。
●他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

警告表示・注意表示について

●表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生ずる被害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告	この表示の欄は、「使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される」内容です。「⚠注意」に記載された事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
注	この表示の欄は、製品の据付、操作、メンテナンスに関する重要な注意事項です。安全上の注意事項と同様必ず守ってください。

絵表示について

●お守りいただく内容の種類を、以下の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。

この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。

電動工具を安全にご使用いただくために

⚠警告

■作業場について

作業場はいつもきれいに明るく保ってください。
●ちらかった場所や作業台は事故の原因となります。
●作業場は十分に明るくしてください。暗い場所や作業台は事故の原因となります。

禁止

作業場の周囲状況も考慮してください。
●爆発を誘引することがある可燃性の液体、ガスや粉じんのある所では使用しないでください。電動工具はこれらを発火させることがある火花を発生します。
●電動工具使用中は、作業者以外、特に子供を近づけないでください。注意が散漫になって、操作に集中できなくなることがあります。また、作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。

火災注意

騒音防止規制について
騒音に関しましては、法令や各都道府県などの条例で定められた規制があります。ご近所に迷惑をかけないようにご使用ください。

■電気に関する安全事項

禁止

電源は正しく接続してください。感電の危険が低減されます。
●電源コンセントは電源プラグに合致するものを使用してください。
●電源プラグは改造しないでください。
●アダプタプラグを併用する場合は、正しく接地（アース）してください。

感電注意　水ぬれ禁止

感電に注意してください。
●電動工具を使用中、身体を、アースされているものに接触させないようにしてください。（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
●電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。

禁止

コードを乱暴に扱わないでください。感電の危険が増大します。
●コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
●コードを熱、油、角のとがったところや動くものに近づけないでください。
●重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。

屋外使用に合った延長コードを使用してください。感電の危険が低減されます。
●屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

感電注意

●電動工具を湿った場所で用いることが避けられない時は、漏電遮断器（RCD）によって保護された電源を使用してください。これにより、感電のリスクは低減されます。

感電注意

アース機構（アースクリップ、アース端子ねじ等）を有する電動工具は、必ず接地（アース）してください。
●接地をしないと故障や漏電の時、感電する原因になります。
●接地は、プラグの横から出ているアースクリップや本体のアース端子ねじにアース線を接続してください。
●テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら、アースクリップ、アース端子ねじと工具本体の金属外郭部間の導通を確認してください。
●アース棒やアース板を地中に埋め込みアース線を接続するような電気工事は、電気工事士の資格が必要ですので最寄の電気工事店に相談してください。
●接地と共に感電防止用漏電遮断器の設置された電源に、接続されますことをお勧めします。
●漏電遮断器や接地については、次の法規がありますので、ご参照ください。
労働安全衛生規則　　第333条・第334条
電気設備に関する技術基準を定める省令（H9）の第10条及び第11条

禁止

アース線をガス管に接続しないでください。
●爆発のおそれがあります。
アース機構を有する電動工具に延長コードを使用する時は、アース線を備えた3芯コードを使用してください。
●アース線のない2芯コードの使用は、感電の原因になります。

二重絶縁構造
●このマークを表示した製品は二重絶縁構造ですので接地（アース）する必要はありません。

■人的安全性

禁止

油断しないで十分注意して作業を行ってください。一瞬の不注意で深刻な人的障害をもたらすことがあります。
●電動工具を使用する場合は、自分が何をしているか、取扱方法、作業の仕方、周囲の状況などを十分注意して、常識をはたらかせて慎重に作業してください。
●疲れていたり、アルコールや薬を飲んでいる場合は、電動工具を使用しないでください。

安全保護具を使用してください。
●作業時は保護メガネを着用してください。
●粉じんの多い作業では防じんマスクを着用してください。
●騒音の大きい作業では、耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音保護具を着用してください。
●屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
●また、必要に応じて、滑り防止安全靴、ヘルメットなど必要な安全保護具を使用してください。

保護メガネ着用　防じんマスク着用　防音保護着用

不用意な始動は避けてください。
●電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
●電源につないだ状態で、スイッチに指をかけて運ばないでください。
●スイッチがオンになった電動工具のプラグを差し込むと、不意に回りだすので危険です。

調節キーやレンチなどは、必ず取外してください。人的傷害をもたらすおそれがあります。
●電源を入れる前に、調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取外してあることを確認してください。

材料を加工する工具では、加工する材料をしっかりと固定してください。
●加工する材料を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。（加工する材料を動かす製品は除く）

禁止

無理な姿勢で作業をしないでください。
●常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
●これによって、予期しない状況でも電動工具を適切に操作することができます。

禁止

きちんとした服装で作業してください。
●だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。
●長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。
●髪、服及び手袋などを回転部に近づけないでください。

回転部注意

集じん装置が接続できるものは接続してください。粉じんを減少させることができます。
●集じん装置が接続できる場合は、装置を確実に接続し、正しく使用してください。

●電動工具を使い慣れていても、安全性に注意して作業をしてください。不注意な行動は、重大な傷害を引き起こすおそれがあります。

■工具の使用と手入れ

禁止

無理して使用しないでください。
●用途に合った正しい電動工具を使用してください。異なる用途に無理に使用しないでください。
●安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
●小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行う作業には使用しないでください。

禁止

●スイッチで始動及び停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。危険ですので、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
●スイッチで制御ができない電動工具を使用すると事故の原因となるおそれがあります。

電源プラグを抜く

次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。誤って始動させるリスクを軽減することができます。
●可動部分などの位置調整を行う場合。
●刃物、砥石、ビットなどの付属品を交換する場合。
●使用しない、または修理する場合。
●その他危険が予想される場合。

使用しない場合は、きちんと保管してください。子供や不慣れな者が使用すると事故のおそれがあります。
●乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所、または錠のかかる所に保管してください。

よく読む

損傷した部品がないか点検してください。整備不良は事故の原因になります。
●使用前に、安全カバーやその他の部品に損傷が無いか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
●可動部分の位置調整及び締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
●破損した安全カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

先端工具は、鋭利、かつ、清潔に保ってください。
●先端工具を適切に手入れして鋭利に保つことで、作業の円滑さを失うことなく、操作も容易になります。

電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具などは、作業条件及び実施する作業を考慮して、取扱説明書に従って、特定の電動工具に合うように使用してください。
●意図された作業と異なる作業に電動工具を用いると、危険な状況になるおそれがあります。

ハンドル及び保持面に、オイル又はグリースを付着させず、きれいな状態で乾燥させておいてください。
●ハンドル又は保持面が滑ると、電動工具の安全な取り扱い又は制御を妨げるおそれがあります。

■整備・修理

分解禁止

電動工具の修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。
●修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく事故やけがの原因となります。修理は、お買い求めの販売店にお申し付けください。
●電源コードが破損した場合、交換には専門知識が必要ですので、販売店にお申し付けください。
●この製品は、該当する安全規格に適合しているので、改造しないでください。
●これによって、電動工具の安全性を維持することができます。

ディスクグラインダーを安全にご使用いただくために

●先に電動工具を安全にお使いいただくための重要事項について述べましたが、ディスクグラインダーをご使用の際には、さらに次に述べる「警告・注意事項」を守ってください。

⚠警 告

■用途に関して

この商品は適切な先端工具を使用することで、以下の用途に使用できます。
■オフセット砥石、弾性砥石、サンディングペーパー、カップワイヤー、ペベルワイヤー
→金属表面の研削、研磨
■切断砥石
→金属の切断

よく読む

この取扱説明書をよく読んで次に列挙する指示に従ってください。
●指示に従わなかった場合、感電、火災、大けがをまねくことがあります。

禁止

この商品は適切な先端工具を使用して各種の作業が出来ますが、上記の推奨作業以外のポリッシャ作業などをしないでください。
●故障や人身事故の恐れがあります。

■砥石などに関して

禁止

推奨する以外の先端工具を使用しないでください。単に取付けできたからと安易に使用しないでください。
●破損、人身事故の原因になります。

禁止

最高許容周速度が72m/s、4,300m/min、または回転速度13,000min^{-1}を下まわる砥石などを使用しないでください。
●これより低い許容速度の砥石などは、破損し飛び散ることがあり、人身事故の原因になります。

禁止

指定先端工具径以外及び取付可能最大厚さを超える砥石などは使用しないでください。（厚さは修正ブッシュ、裏あてパッドなどを含む）
指定取付穴径（修正ブッシュを含む）以外の砥石などや裏あてパッドは使用しないでください。
取付穴径が大きい物は偏心して過剰に振動し、制御できなくなることがあります。
●破損し飛び散ることがあり、人身事故の原因になります。

■各種作業に関して

点検・確認

破損した先端工具は使用しないでください。
砥石などに、欠け、ひび割れ、過剰な磨耗がないか、使用前に点検してください。
誤って落としたり、ぶつけたりしたときは、砥石などや機体に破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
●破損や亀裂、変形がありますとけがの原因になります。

新しい砥石などに交換したときは、砥石などの露出部から一時身体を避けて、周囲の人を遠ざけてから、3分間以上運転してください。
その日の作業始めのときは1分間以上運転してください。
●新品でも損傷した砥石などは破損して飛び散ることがありますので注意してください。

作業時は、安全保護具を使用してください。
飛散破片を防護できる保護メガネ、保護面などを着用してください。
飛散小破片や粉じんを防護できる防じんマスクを着用してください。
帽子、長袖服、長ズボン、手袋、作業用エプロンなどを着用してください。
屋外作業時は、ゴム手袋、滑り止め付き履物をお勧めします。
●作業中、砥石などの破損、加工物が急に回転したり、飛んだとき、思わぬけがの原因となります。

保護メガネ着用

防じんマスク着用

防音保護着用

耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音保護具を着用してください。
●高い騒音を長時間浴びると聴覚喪失をもたらすことがあります。

作業時は、だぶだぶの衣服やネクタイなどは着用しないでください。
●作業中、回転部に巻き込まれ、思わぬけがの原因となります。

周囲の人を作業領域から安全な距離に遠ざけてください。
もし、作業領域に入る場合は、作業者と同様に安全保護具を使用してください。
●加工品又は砥石などが破損したとき飛び散って、けがの原因になることがあります。

切断用先端工具が、隠れた配線又は電動工具自身のコードと接触することがある作業を行うときは、
絶縁されたグリップ面だけで電動工具を保持してください。
●切断用先端工具が電気活線と接触すると、露出金属部が充電部となり、感電の恐れがあります。

感電注意

電源コードは回転砥石などから離してください。
●電動工具が制御を失った場合、コードが切断されたり引っ掛ったりして、手又は腕が回転砥石などに引き込まれることがあります。

禁止

回転させたままの状態で、台や床の上に置かないでください。
●電動工具が飛び跳ねてけがの原因になります。

電動工具を身体の横に持っているときは運転しないでください。
●回転砥石などとの不測の接触で着衣が引っ掛り、回転砥石などを身体に引き込む恐れがあります。

電動工具の空気口部は時々掃除してください。
●粉じんを内側に引き込み、粉末金属の過剰な蓄積が電気的な危険をもたらすことがあります。

火災注意

研削粉は火花となって飛散しますので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。
また研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。
●火災ややけどの原因となります。

禁止

水や研削液などは絶対に使用しないでください。
本機は乾式用です。
●砥石などの破壊や、感電死・感電などの事故の原因になります。

感電注意

■キックバックに関して

●キックバックとは、回転砥石などが挟まったり引っ掛ったりしたときに、その反動で砥石などの回転方向とは逆方向に電動工具本体が突然に押しやられることです。砥石などが這い上がったり跳ねたり破損することもあります。キックバックは電動工具の誤使用や不正操作の結果であり、次の事項を守って回避してください。

使用中は、機体をしっかりと保持してトルク反動やキックバックに備えてください。
特に始動時は気をつけてください。
●しっかりと保持していないと、キックバックのときにけがの原因となります。

使用中は、絶対に回転部などに手や顔を近づけないでください。
●キックバックのときにけがの原因となります。

キックバックのときに電動工具が回る側に身体を置かないでください。
●砥石などの回転と逆に回ります。

コーナ、鋭いエッジなどを加工するときは、先端工具が跳ねたり又はひっかかったりしやすいので、特に注意してください。
●砥石などを引っ掛けて電動工具が飛び跳ねたりキックバックでけがの原因となります。

禁止

丸のこ刃を取付けないでください。
●頻繁にキックバックを起こし電動工具を制御できなくなります。
●けがの原因になります。

■ディスクカバーに関して

付属のディスクカバーを使用してください。
●付属以外のディスクカバーは危険なことがあります。
但し、切断用砥石のご使用の際は、付属のディスクカバーは使えません。
切断砥石専用のディスクカバー（別売り）をご使用ください。

ディスクカバーは、必ずしっかりと正しい位置に取付けて使用してください。
●破損した砥石などの破片や、砥石などとの不測の接触からガードすることができます。

作業の都合でディスクカバーを取外したり、改造しないでください。
●本機の破損やけがの原因となり、大変危険です。

■砥石など及び砥石などの取付具に関して

砥石などは指定の用途だけに使用して、指定の使用面で作業してください。
切断砥石の側面で研磨しないでください。
弾性砥石、刃物砥ぎ用砥石などで切断しないでください。
●砥石などが破壊して、けがの原因になります。
オフセット砥石は、側面及び周面での作業ができます。

禁止

付属のインナーフランジ及びロックナットが破損していないことを確認して、砥石などを取付けてください。
スピンドルシャフトに合わない取付具は使用しないでください。
偏心したり傾いたりして過剰に振動します。
●破損、人身事故の原因になります。

禁止

大型工具用の消耗して小径となった砥石などを使用しないでください。
砥石などの最高許容回転速度がこの電動工具の速度を下回る恐れがあります。
●砥石などが破損して、けがの原因になることがあります。

■切断作業に関して

切断砥石などを、噛み込ませないでください。
過剰な圧力をかけないでください。
過剰な切断深さを得ようとしないでください。
斜め切り、曲線切断、ジグザグ切断などは、絶対にしないでください。
●砥石などに過大な応力を加えると、砥石などのねじれ、拘束、キックバック、砥石などの破損の可能性が増大します。

身体を砥石などと一直線にしたり、その後方に置いたりしないでください。
●砥石などが身体から離れていくときに、キックバックが起こると、砥石などや電動工具が身体に直接向かってくることがあります。

砥石などが拘束されているか、何かの理由で切断を中断しているときは、電動工具の電源を遮断し、
砥石などが完全に停止するまで電動工具が動かないように保持してください。
砥石などが動いている間は、決して切断部から外そうとしないでください。
●キックバックが起こることがあります。
砥石などの拘束の原因を調べて、それを除去してください。

加工物の中で切断作業を再開しないでください。
砥石などが全速に到達するのを待って、注意しながら切断部に再び入ってください。
●電動工具を加工物内で再始動すると、砥石などが拘束されたり、上に上がってきたり、キックバックしたりすることがあります。

パネル又は特大の加工物は砥石などの挟まりやキックバックのリスクが最小限になるように支持してください。
●大きな加工物は、重さでたわむ傾向があります。
支持台は、加工物の下の切断線の近くで、砥石などの両側の加工物の端の近くに置いてください。

既存の壁、その他の見えない部分に、ポケットカットを行うときは、特に注意してください。
●壁面の裏側に出た砥石などが、ガス管若しくは水道管、電気配線又はキックバックの原因となり得るものを切断することがあります。

■研磨作業に関して

大きすぎるサンディングペーパーは使用しないでください。
指定の外径のものを使用してください。
●研磨パッドからはみ出た大きなサンディングペーパーは裂傷の危険があり、又、ひっかかり、ディスクのちぎれ、又はキックバックの原因となることがあります。

■ワイヤブラシ研磨作業に関して

通常の作業中であっても、ブラシのワイヤがブラシから抜け落ちることがあります。
ブラシに過剰な負荷を加えて、ワイヤに過大な応力を与えないでください。
●ブラシのワイヤは、軽装の着衣や皮膚を容易に貫くことがあります。

ディスクカバーに、ワイヤホイールなどが接触しないことを確認してください。
●ワイヤホイールやブラシは、作業負荷及び遠心力によって直径が拡大することがあります。

その他の警告・注意事項

■使用電源に関して

⚠警 告

使用電源は、必ず銘板に表示してある電圧で使用してください。
●表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となって機体が破損する恐れがあり、けがの原因となります。

感電防止のため、漏電遮断器が設置されていることを確認してください。
二重絶縁品を除き、必ずアースを接地してください。

感電注意

⚠注 意

延長コードは損傷のないものを使用してください。
延長コードはできるだけ短く（30m以内）、また本体取付けの電源コードより太い工具用キャブタイヤコードをご使用ください。
ドラム式の延長コードをご使用の際は、コードを全部引き出してご使用ください。
●巻いた状態のまま使われますと過熱事故の恐れがあります。

■作業に関して

⚠警 告

禁止

運転中は、砥石など回転部には、絶対に触れないでください。
●けがの原因となります。

砥石などが回転しているときは、絶対にシャフトロックボタンを押さないでください。
●機体が破損して、けがの原因になります。

禁止

機体を万力などで保持して、定置式のような使い方はしないでください。
●砥石などが破壊したとき、けがの原因になります。

よく読む

砥石などや付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
●確実でないと、はずれたりして、けがの原因になります。

禁止

マルノコ刃、チップソーなどでの切断作業はしないでください。
●丸鋸としての保護装置はなく、けがの原因となります。

高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
また、コードを引っかけて機体を落としたりしないように注意してください。
●材料や機体などを落としたときなど、事故の原因になります。

禁止

本機は、取り扱いに不慣れな人や正しい操作のできない人などには、絶対に使用させないでください。
●操作を誤ると、けがの原因となります。

⚠注 意

禁止

本機の定格使用時間は30分です。それ以上の連続負荷作業はしないでください。
●故障の原因になります。

本機が熱を持った場合は、無負荷運転を2分程度行った後、機体の温度が十分に下がるまで休ませてください。

使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、
お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
●そのまま使用していると、けがの原因となります。

3. 準備

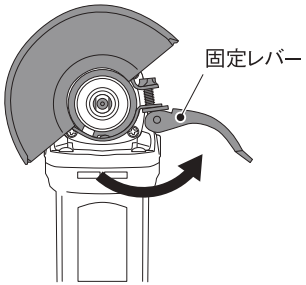
ディスクカバーの取付け・取外し

⚠警 告

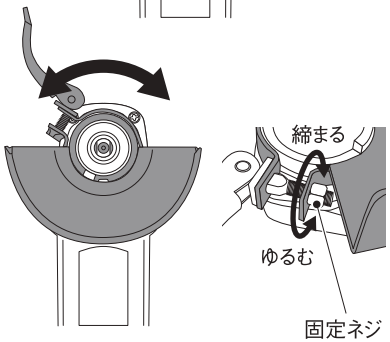
ディスクカバーの取付け・取外しの際は、必ず本機のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
●プラグを電源につないだまま行うと事故の原因になります。

1.ディスクカバーの取外し、角度調整

●取外し
ディスクカバーの固定レバーを引き起こしてディスクカバーを回転させながら、上方に抜き取ってください。

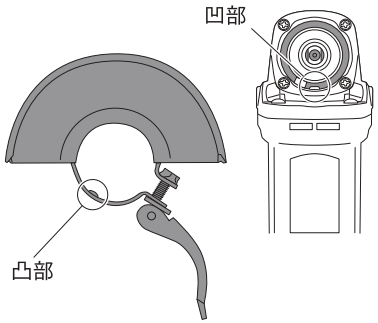


●角度調整
①作業に合わせてお好みの位置にディスクカバーを回転させてください。
②調整が終わりましたら、固定レバーを閉じてください。
※レバー固定がゆるいまたは固い場合は、固定ネジでレバーの固定強度を調節してください。



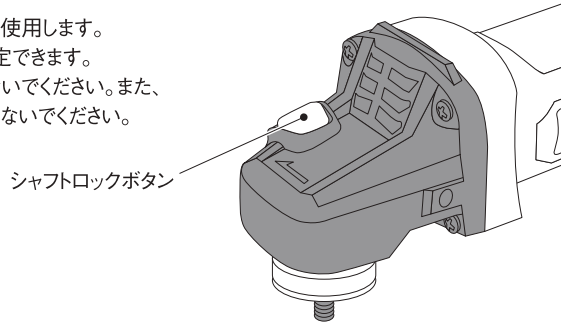
2.ディスクカバーの取付け方

●ディスクカバー内側にある凸部とギアボックス外周にある凹部に合わせてディスクカバーを回しながらギアボックスへはめ込んでください。



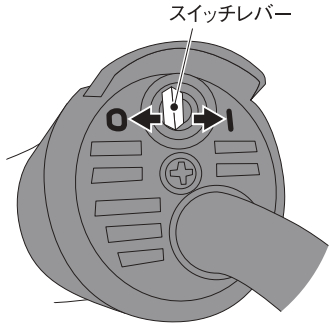
シャフトロックボタンについて

砥石などのアクセサリーの取付け・取外しの際に使用します。
ボタンを押し込むことでシャフトが回らないよう固定できます。
●モーター回転中にシャフトロックボタンを押さないでください。また、シャフトロックボタンを押したままスイッチを入れないでください。



スイッチ操作について

スイッチは本体後方部にあります。
スイッチはスイッチレバーを1側に倒すと電源が入り、0側に倒すと電源が切れます。



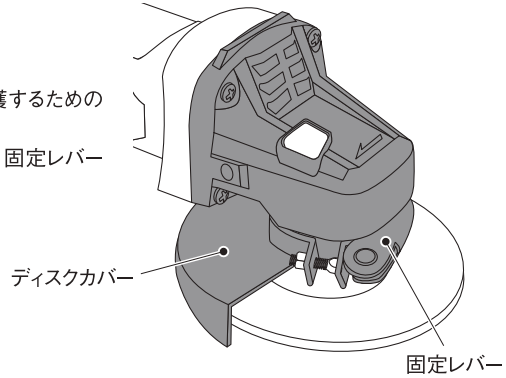
ご使用前の点検

1.コンセントを確かめます

コンセントがガタついたり、電源プラグが抜けるようだと修理が必要です。
●そのまま使用すると危険です。電気工事店にご相談ください。

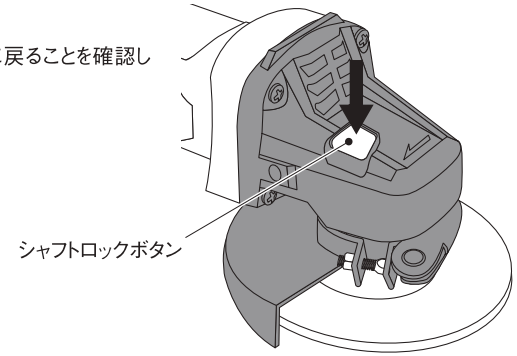
2.ディスクカバーを確かめます

ディスクカバーは砥石が破損した場合に使用者を保護するためのものですから、必ず取付けてください。
●ディスクカバーは角度の調整ができます。調整後は、固定レバーを確実に締め付けてください。



3.シャフトロックボタンを確かめます

シャフトロックボタンを押して、離したときに確実に戻ることを確認してください。

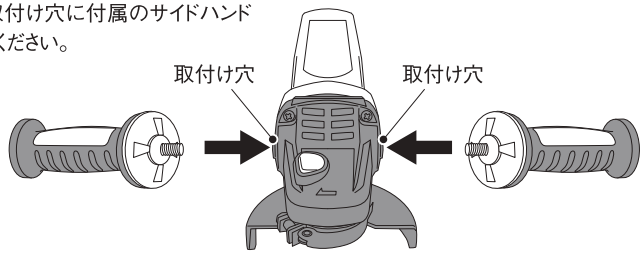


4.アクセサリーの確認と取付け

砥石などのアクセサリー類は正規のものか、またヒビや割れ、変形などの破損がないか十分にお調べください。
アクセサリーは正しく取付けられ、十分に締め付けられているか点検してください。
●各アクセサリーの取付けは15ページ以降の取付けをご参照ください。

5.サイドハンドルの取付け

本機の左右にあるサイドハンドルの取付け穴に付属のサイドハンドルを右、または左に確実にねじ込んでください。



6.試運転を行う

⚠警 告

機体のスイッチを入れるときは、機体の回転部が加工材料などに接触していないことを確認してください。
接触していることを知らずにスイッチを入れると、砥石が破壊することがあり、けがの原因になります。
●新しい砥石を取付け、初めてスイッチを入れるときは、砥石の露出部から必ず一時体を避けてください。

⚠注 意

●砥石にヒビ・割れがあるのを気づかずに作業されますと非常に危険です。けがの原因になります。
●作業前には人のいない方向に砥石を向けて、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。

試運転時間は	砥石交換のとき……3分間以上
	その日の作業始めのとき……1分間以上

4. 使い方

研削・研磨の基本

⚠警 告

●作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
●機体に衝撃をかけると砥石にヒビが入ったり、割れたりする恐れがありますので取り扱いには十分注意してください。
●万一機体を誤ってぶつけたり、落としたりしたときは、必ず砥石のヒビ割れや、機体に損傷などがないことを十分確認してください。

⚠注 意

モーター回転中にシャフトロックボタンを押さないでください。また、シャフトロックボタンを押したままスイッチを入れないでください。

1.スイッチを入れます

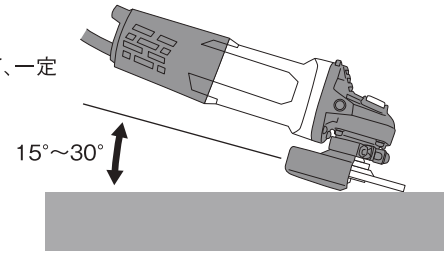
砥石が加工材などに接触していないことを確認してからスイッチを入れてください。
スイッチはレバーを1側に倒すと入り、0側に倒すと切れます。

2.砥石を加工材に当ててください

モーターの回転が十分に上がってから、機体自身の重さで研削できるよう材料に軽く当ててください。
砥石を強く押し付けますと回転が落ち仕上げ面が汚くなります。
また、過負荷になってモーターを焼損する原因になります。

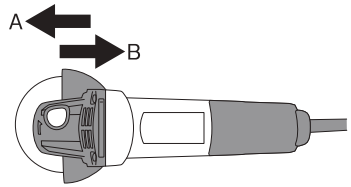
3.押し付け角度を保ってください

砥石の全面を材料に当てないで、本体を15°から30°傾けて、一定の角度を保ち、砥石の外周部で研削します。



4.一定の速度で研削してください

機体を軽く持ち上げ気味にしてゆっくりと一定速度で研削すると、きれいに仕上げることができます。
砥石を動かす方向は、砥石が新しいときは、前（Aの方向）へ押すと砥石の角が食い込むことがありますから、後ろ（Bの方向）へ引いてご使用ください。
砥石の角が磨耗したら、どちらへ進めてもかまいません。



5.スイッチを切ってください

作業が終わった後はスイッチを切り、砥石の回転が止まってから機体を置きます。
回転が止まらぬうちに切り粉やごみの多い場所に本機を置きますと、切り粉やごみを巻き込むことがあります。
製品寿命短縮、事故の原因になりますので、ご注意ください。

研削砥石（オフセット砥石）の取付けと研削作業

⚠警 告

取付け・取外しの際は、必ずスイッチを切りプラグを電源から抜いてください。
●プラグを電源につないだまま行うと事故の原因になります。

1.研削砥石（標準付属品）の取付け

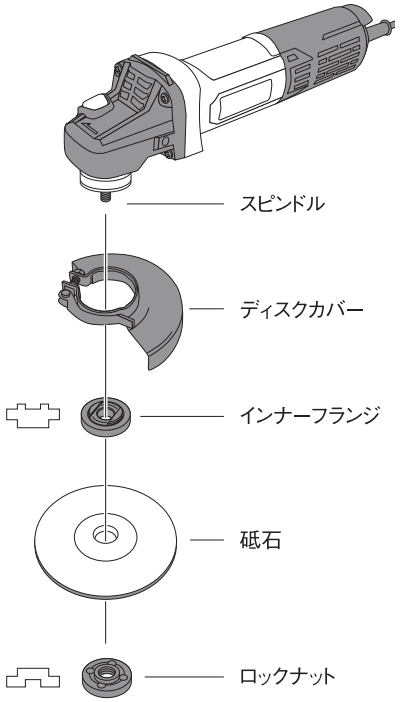
①インナーフランジの凹部をスピンドルの切欠部に合わせてはめ込んでください。
②研削砥石の凸部を内側にして内径をインナーフランジの凸部にはめ込んでください。
③ロックナットの凸部を内側にしてスピンドルにねじ込んでください。
④シャフトロックボタンを押さえて、砥石をゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでしっかりと締め付けてください。

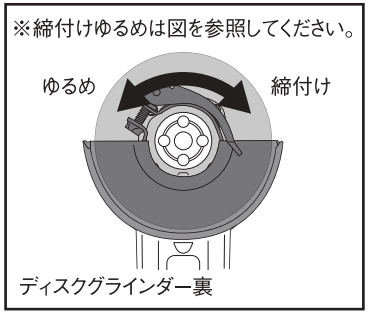
2.作業方法

14ページの「研削・研磨の基本」通りに作業してください。

3.研削砥石の取外し

①シャフトロックボタンを押さえて、砥石をゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでゆるめてください。
②ロックナット、砥石、インナーフランジの順番に取外してください。





弾性砥石（フレキシブル砥石）の取付けと研磨作業

⚠警 告

取付け・取外しの際は、必ずスイッチを切りプラグを電源から抜いてください。
●プラグを電源につないだまま行うと事故の原因になります。

⚠注 意

弾性砥石（フレキシブル砥石）（別売）の使用には専用パッドが必要ですが、詳しくは、選ばれる弾性砥石の案内に従ってご購入ください。

1.弾性砥石の取付け

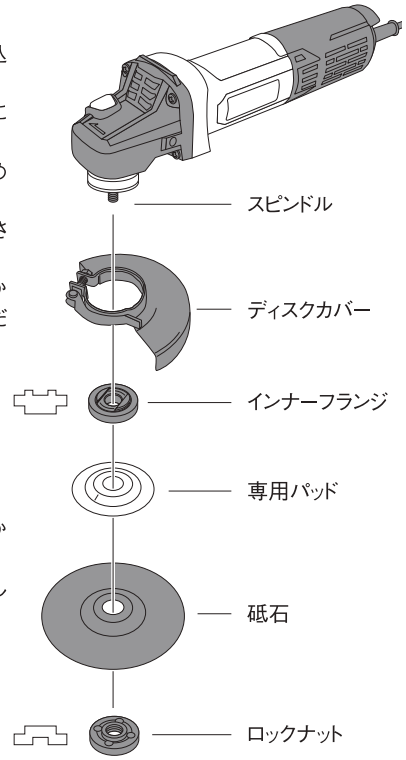
①インナーフランジの凹部をスピンドルの切欠部に合わせてはめ込んでください。
②専用パッドの凹部を外側にして内径をインナーフランジの凸部にはめ込んでください。
③砥石の凸部を内側にして内径をインナーフランジの凸部にはめ込んでください。
④ロックナットの凸部を砥石側にしてスピンドルにねじ込んでください。
⑤シャフトロックボタンを押さえて、砥石をゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでしっかりと締め付けてください。

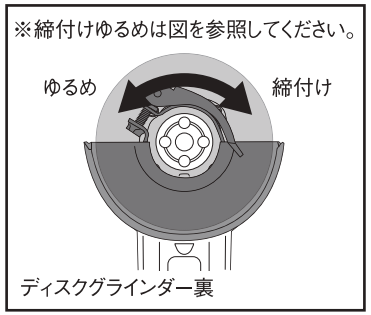
2.作業方法

14ページの「研削・研磨の基本」通りに作業してください。

3.弾性砥石の取外し

①シャフトロックボタンを押さえて、砥石をゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでゆるめてください。
②ロックナット、砥石、専用パッド、インナーフランジの順番に取外してください。





サンディングペーパーの取付けと研磨作業

⚠警 告

取付け・取外しの際は、必ずスイッチを切りプラグを電源から抜いてください。
●プラグを電源につないだまま行うと事故の原因になります。

⚠注 意

サンディングペーパー（別売）の使用には専用のロックナットおよびラバーパッドが必要ですが、詳しくは、選ばれるサンディングペーパーの案内に従ってご購入ください。

1.サンディングペーパーの取付け

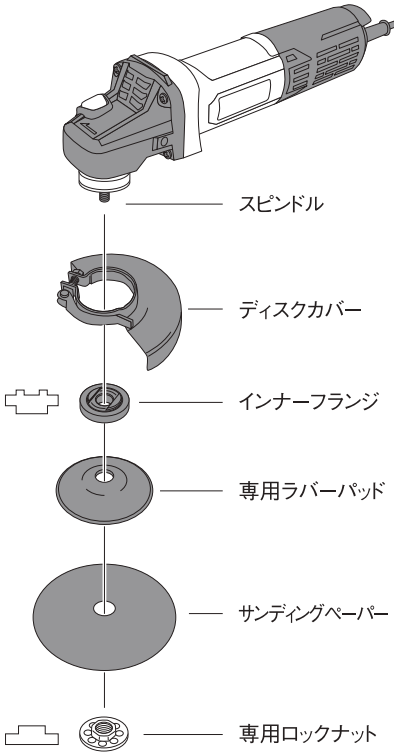
①インナーフランジの凹部をスピンドルの切欠部に合わせてはめ込んでください。
②専用ラバーパッドの凹部を外側にして内径をインナーフランジの凸部にはめ込んでください。
③ペーパーの研磨面を外側にして内径をスピンドルにはめ込んでください。
④専用ロックナットの凸部をペーパー側にしてスピンドルにねじ込んでください。
⑤シャフトロックボタンを押さえて、パッドをゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでしっかりと締め付けてください。

2.作業方法

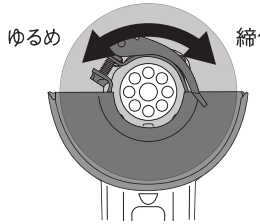
14ページの「研削・研磨の基本」通りに作業してください。

3.サンディングペーパーの取外し

①シャフトロックボタンを押さえて、ペーパー、パッドをゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでゆるめてください。
②専用ロックナット、サンディングペーパー、専用ラバーパッド、インナーフランジの順番に取外してください。



※締付けゆるめは図を参照してください。



ディスクグラインダー裏

切断砥石の取付けと切断作業

⚠警 告

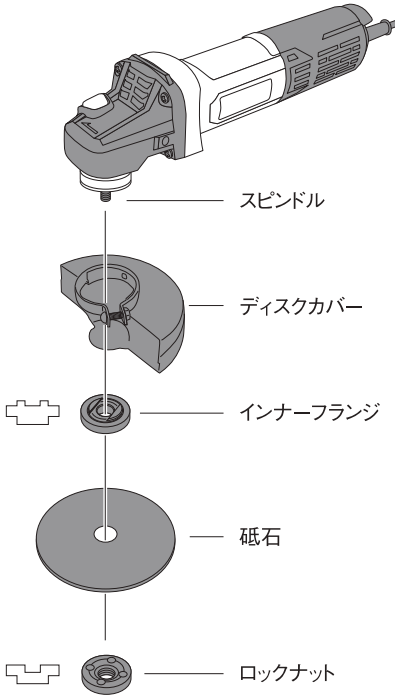
取付け・取外しの際は、必ずスイッチを切りプラグを電源から抜いてください。
●プラグを電源につないだまま行うと事故の原因になります。

1.切断砥石の取付け

⚠注 意

切断砥石（別売）の使用には専用の切断砥石カバー（別売）を使用してください。

①インナーフランジの凹部をスピンドルの切欠部に合わせてはめ込んでください。
②切断砥石をスピンドルにはめ込んでください。
③ロックナットの凹部を砥石側（研削砥石のときと逆）にしてスピンドルにねじ込んでください。
④シャフトロックボタンを押さえて、砥石をゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでしっかりと締め付けてください。



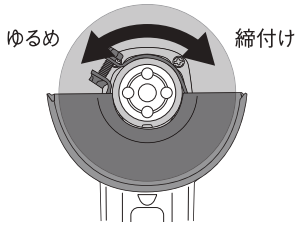
2.作業方法

①スイッチを入れる。
砥石が加工材などに接触していないことを確認してからスイッチを入れてください。
②一定速度で切断してください。
本体をしっかりと保持して、モーターの回転が十分に上がってから、ゆっくりと一定速度で切断してください。
決して無理をせず、切り終えるまで同じペースで行ってください。
③作業終了後スイッチを切ります。
切り終わったらスイッチを切り、砥石の回転が止まってから機体を置いてください。

3.切断砥石の取外し

①シャフトロックボタンを押さえて、砥石をゆっくりと回して、ロックがかかる位置をさがし、ロックナットをレンチでゆるめてください。
②ロックナット、砥石、インナーフランジの順番に取外してください。

※締付けゆるめは図を参照してください。



ディスクグラインダー裏

ワイヤーブラシの取付けと研磨作業

⚠警 告

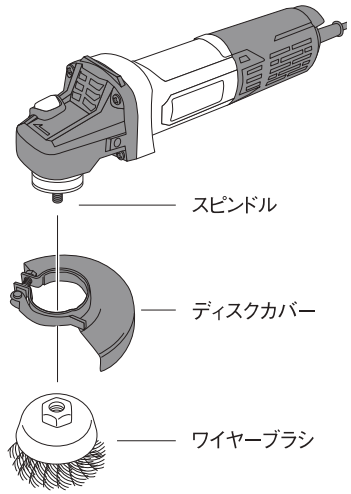
取付け・取外しの際は、必ずスイッチを切りプラグを電源から抜いてください。
●プラグを電源につないだまま行うと事故の原因になります。

⚠注 意

ワイヤーブラシ（別売）の取付けには、本機のインナーフランジ、ロックナットは使用できません。また、締め付け工具として専用のスパナ（17, 18, 21, 22mmなどワイヤーブラシによって異なります。）が別途必要です。

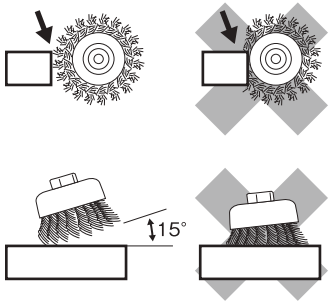
1.ワイヤーブラシの取付け

①本機からロックナット、インナーフランジを取外して、スピンドルに直接ワイヤーブラシをねじ込んでください。
②シャフトロックボタンを押さえて、スピンドルを固定し、専用のスパナでワイヤーブラシをしっかりと締め付けてください。



2.作業方法

①スイッチを入れる。
ワイヤーブラシが加工材などに接触していないことを確認してからスイッチを入れてください。
②ワイヤーブラシを加工材に当ててください。
モーターの回転が十分に上がってからワイヤーブラシの先端部を材料表面に軽く当ててください。
強く押し付けますと仕上げ面が汚くなりワイヤーブラシの寿命が短くなります。また、ワイヤーブラシの底面部を材料に当てるようにしてください。
側面部分を材料に当て続けますと、ワイヤーブラシを傷めたり、寿命が短くなります。
③作業終了後スイッチを切ります。
切り終わったらスイッチを切り、砥石の回転が止まってから機体を置いてください。



3.ワイヤーブラシの取外し

シャフトロックボタンを押さえて、スピンドルを固定し、専用のスパナでワイヤーブラシを取外してください。

※締付けゆるめは図を参照してください。

5. 保守・点検

⚠警 告

保守・点検、部品交換などのお手入れの際は、必ずスイッチを切りプラグを電源から抜いてください。
●プラグを電源につないだまま行うと事故の原因になります。

■砥石の取り替え時期

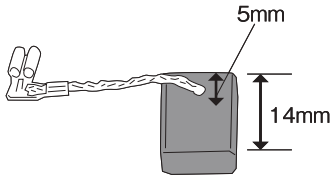
砥石の取り替え時期は、砥石の直径が60mm程度まで磨耗しましたら、新品と交換してください。

■取付けネジの点検

各部の取付けネジがゆるんでいないかどうか定期的に点検してください。
もしゆるんでしまうネジがありましたら締めなおしてください。
●ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

■カーボンブラシの点検・交換

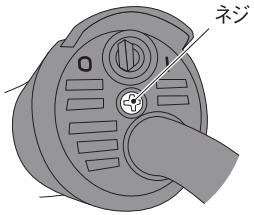
モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しています。
カーボンブラシの磨耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが磨耗の限度（5mm）程度になりましたら新品と交換してください。
また、カーボンブラシやブラシホルダ内はごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内でカーボンブラシが自由にすべるようにしてください。



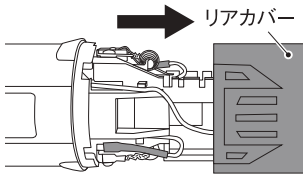
⚠注 意

交換の際は、必ず指定のカーボンブラシを使用してください。

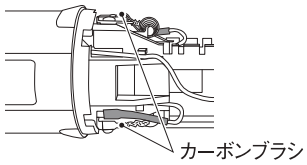
①本体後部のネジを外してください。



②リアカバーを引き抜いてください。



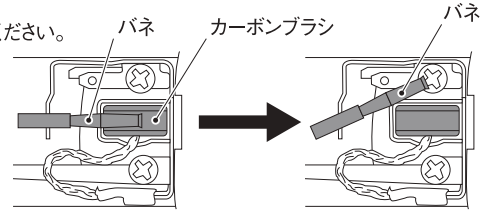
③カーボンブラシはリアカバーを外した本体部分の上下に一つずつ入っています。



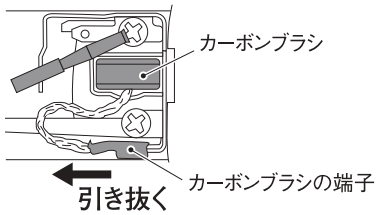
⚠注 意

作業は直接手で触れないように行ってください。

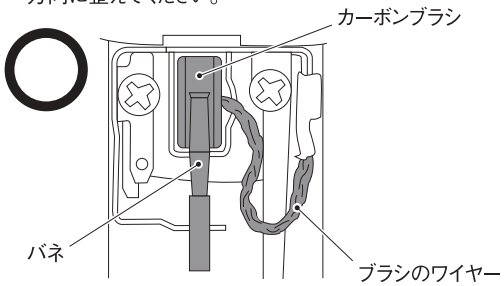
④カーボンブラシを押えているバネを図の方向にずらしてください。

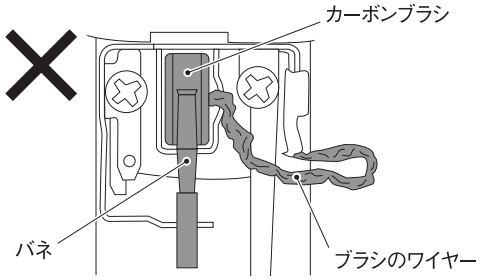


⑤カーボンブラシの端子部を引き抜き、カーボンブラシを取り外してください。



⑥新しいカーボンブラシを取り付けて、バネを元の位置に戻してください。
※ブラシのワイヤーが大きく横方向にはみ出さないように、カーボンブラシに対して縦方向に整えてください。

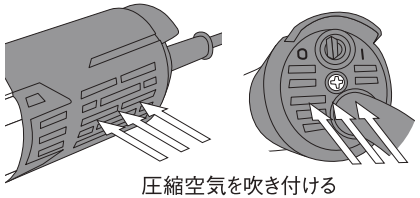




⑦リアカバーを取り付けて、ネジで固定してください。

■モーター部の取り扱いについて

モーター部の巻線部分にはごみやほこり、粉塵がたまりますと故障の原因になります。
定期的にモーターを無負荷回転させ、圧縮空気を本体後方部の風穴から吹き付けてください。



圧縮空気を吹き付ける

■使用後の手入れ

油汚れなどを拭き取り、使いやすい状態にしてください。
乾いた布か石鹸水を付けた布で本体を拭いてください。
●ガソリン、シンナー、石油類での清掃は本体を傷めます。
また、水洗いは絶対にしないでください。

6. 無料修理規定

1.取扱説明書、本体貼り付けラベル等の注意書に従った使用状況で保証期間内に故障した場合には無料修理させていただきます。
(1)無料修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店に商品と保証書をご持参、ご提示いただき、お申し付けください。

2.ご転居、贈答品などで本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼になれない場合には、藤原産業(株)情報サービスセンターにお問い合わせください。

3.保証期間内でも次の場合には原則として有料とさせていただきます。
(1)使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障または損傷。
(2)お買い上げ後の落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
(3)定格外の仕様電源(電圧、周波数)などによる故障または損傷。
(4)車両、船舶に搭載して使用された場合に生じた故障または損傷。
(5)業務用及びそれに準ずる使用をされて生じた故障または損傷。
(6)本書のご提示がない場合。
(7)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名のない場合。
販売店名を証する物(レシートなど)の添付がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。

4.本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

5.本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限する物ではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。